



新字出温抄

ホ 2
4802
2



門 本 2
號 4802
卷 2

冊 五 和
號 罌 工

和字正濫鈔卷二

以伊異已音五十訓等用之

和字正濫鈔卷二

膽

い

膽駒膽吹熊
膽等准之

射

い

射手射場等なれるし。
日本紀いふよこしあり

寢

い

朝寢
等

色

いろ

何れも色附
彩いろなる

母

いろは

たゝね
古伝

身

いろと

日本紀いろおと
のねを映るる也

いろはのいろはの
略よて曰母身のこた

兄

いろね

日本紀いろはとま
つゝいろねはせと

和字正濫鈔卷二

日韻をれいらせよて日母元と云
先。あつとてあよとせよとてわ

鱗 いろくみり
いろくみり
とよくみり

喘息 いろけ
日本紀
いろけ

雲脂 いろこ
和名頭振也。鱗と
同。義ちりへ

岩 いは

巖 いろほ
万葉よ石徳とか
いろほ

あつとよそれとてゆらをとよとつり足の中よ目をひらきすやう
ちるをいもほとてく。編藤等の枝よの帆火ホウ柱徳等のびり同さ
ち
り
羊躑躅 いはつー
和名あら
つー

石網 いろつふ
万葉集云
るりつ

磐梨 いろちす
和名梅ふ
國郡名

石章 いろのかえ
いろくみ
とて和名

卷柏 いはくみ
いろくみ
和名

石薺 いろくさ
すくさひのめ
いろねとて和名

窟 いろや
屯 いろむ
日本紀満
溢並同

況 いろむや
同 矧
日本
紀

○ 未考 いろける
祝 いろよ

鎮齋 いほよ
神をいほよ
なり
磐余 いほあ
和國十有餘なり

嘶 いとゆ

和名素いすくとし。いすえとけし。くれ
よ弱い。いすくとし。いすくとし。いすくとし。

所謂 いとゆ

古 いとゆへ

「鳥行乃いすくとし」
「その記をいすくとし」
「一方は、一方の
字をいすくとし」

めりいすくとし

紀行をいすくとし
紀行をいすくとし
紀行をいすくとし

廬 いほり

いすくとし
農と旅との

いほりてをいすくとし。いほりてをいすくとし。いほりてをいすくとし。
いほりてをいすくとし。いほりてをいすくとし。いほりてをいすくとし。

菴 いほり

營 いほり

軍營和名將軍
を柳とす。いすくとし

周亞まゝなるなり。いほりてをいすくとし。いほりてをいすくとし。いほりてをいすくとし。
のいすくとし。いほりてをいすくとし。いほりてをいすくとし。いほりてをいすくとし。

これと記す。いほりてをいすくとし。いほりてをいすくとし。いほりてをいすくとし。

螳螂 いほり

和名腕
目をいすくとし

すれは。いほりてをいすくとし。いほりてをいすくとし。いほりてをいすくとし。

魚緒 いほり

和名備中
小田郡郷

名。いほりてをいすくとし。いほりてをいすくとし。いほりてをいすくとし。

家 いほり

「万葉和名集。いすくとし」
「とかくいすくとし」

鴿 いはと

兔葵 いほり

和名
名

雖 いほり

いほりてをいすくとし。いほりてをいすくとし。いほりてをいすくとし。
いほりてをいすくとし。いほりてをいすくとし。いほりてをいすくとし。

其よ。いほりてをいすくとし。いほりてをいすくとし。いほりてをいすくとし。
思ふ。いほりてをいすくとし。いほりてをいすくとし。いほりてをいすくとし。

ずい人をまのちのふちりとかやうのじし階あり。人のいへどい
人ものふどしかやうなるハ雖言イマモトよて一字はあつずいを著へー

芋 いへりいし

わないしとのこしひみふ
葉よいうしとしとふあり

絲 いと

怡士 いと

わな筑前
國郡名

甚 いと 痛左
亦同

彌 萬 葉 いと

哀不忍聽 いとをーがる

日本紀は鳥取連萬が木の萬
り付死ーくろアをさりりくろー

帝守ーめてあえれませ給へ
るを記されらるあよかめ

營 いとなむ

挑 いとむ

暇 いとま

駄 いとふ

從父兄弟 いと

附再は兄弟
いやいと

○ まな名
未考 いとこ

日本紀のまなようまな人かうまなをちやいとこふいとこどら
とよあり。どのいとこま准くられ白筆をいさうとえんり

幼 いとこさる

市 いち

嚴忌 いちはや

日本紀
捷毛詩

肆 いちぐ

市倉あり
和名

覆盆子 いちこ

日本紀はハヤミ苗糸いとのど古語はかやうのいの
字の西復盆と蓬苗糸とハ一おの美様さうり

灼然 いちぢろ いちぢろ
市師花 倭字 いちぢのいな 万葉

櫟 いちぢ 日本紀古事記万葉集和名系
等並同。いちぢぬとかくへうす

市郭兒 いちぢび 和名
熬海鼠 いちぢこ 和名

鴈 いちぢもの 和名
往 いぬ いぬと申す

犬 いぬ 狗同和名
急ぬとも
荏草 いぬたで 和名大何
くく何と

いふおのゑの似て
それよあつたる
入 いろ コレハ思ひ射る矢ナド言カテ
コレモ取行ハトスレ又陷ラ
キニナサカマレ

鑄 いろ
熬 いろ

江豚 いろの 和名
忽緒 いろか

魚 いを 和名倍流るりうをしし
鱗あり尾あれハ鱗尾花

漁子 いをどり 和名
鰯 い 和名

商陸 いをすま 和名
伊賀 い 倭名伊豆倭
縁等此

栗刺 い 和名
五十日 い せれて五十日よ
りていふふ

鳥賊 いり 附鳥賊墨 いりのくろみ

碇 万葉 重石 いり 和名

かくろくさか せんのなり

筏 俗誤 作筏 いり

噓 いり 犬 未考

巖 いり 日本紀重同 めし 此字死

如何 いり 甲

何鹿 いり 和名丹波回 郡名斑鳩を

鎔 いり 傍形の 義ちり

雷 いり 賸槌の義 又ハちりかみ

瑞籬 いり 万葉并初石 又いりかみ

貽貝 いり 貽音怡なれん 音をとり初とさる

彌 いり いり

齷 いり いり

扱 いり

勞 いり いり

虎杖 いり

和名本草綱目よハ斑よて虎の文よ似又杖よ似 くれかかろ名付らるり 枕ま子よハ虎の

杖よるりて杖ついでしゆくへきうほつさをとらり。聖およ名実お違 さら例よ蛇床虎杖るしとらるし同さなり。和名よ本草を疏を引て虎 杖一名武杖といらるよ合とれ くれし虎杖のさなり

馳 いり 和名

蔓椒 いり 和名

連翹 いり 和名

至

いゝふ

附致
いゝす

頂

いゝふ

附戴
いゝく

巔

山

いゝふ

徒

万葉
せ用

いゝふ

平題箭

いゝつき

和名

痛

いゝむ

抱

いゝく

うたぐとく又むくぐとく日本紀よあり。抱をたむぐくとくむむハ手抱^{タカク}なり。万葉よあり。たむぐとくすとくふふへうす。又け字日中紀よあり。むつらとくあり。こまねくとくむハ幸のふらう

文蛤

いゝやひ

こ文板屋^{イフ}なり。れハ板屋^{イフ}なり。

流矢

いゝやく

日本
紀

伊太祁曾

いだき

伊
紀

回々々々祁よ素多鳴尊の流子^{イソ}み^{タカク}徳令のま^{イソ}や^{タカク}社^{イソ}の名^{イソ}なり。は^{イソ}付て素^{イソ}ら^{イソ}よ^{イソ}存^{イソ}な^{イソ}祁^{イソ}曾^{イソ}ハ^{イソ}十^{イソ}徳^{イソ}の^{イソ}假^{イソ}名^{イソ}なり。や^{イソ}れ^{イソ}ハ^{イソ}又^{イソ}す^{イソ}を^{イソ}い^{イソ}との^{イソ}う^{イソ}む^{イソ}べ^{イソ}。曾^{イソ}ハ^{イソ}魯^{イソ}の^{イソ}字^{イソ}を^{イソ}去^{イソ}あ^{イソ}や^{イソ}ま^{イソ}て^{イソ}ら^{イソ}れ^{イソ}魯^{イソ}の^{イソ}呉^{イソ}音^{イソ}ら^{イソ}れ^{イソ}日本^{イソ}紀^{イソ}り^{イソ}あ^{イソ}る^{イソ}を^{イソ}波^{イソ}魯^{イソ}波^{イソ}魯^{イソ}と^{イソ}か^{イソ}り^{イソ}。祁^{イソ}ハ^{イソ}万^{イソ}葉^{イソ}よ^{イソ}け^{イソ}との^{イソ}と^{イソ}用^{イソ}て^{イソ}き^{イソ}く^{イソ}と^{イソ}用^{イソ}た^{イソ}ら^{イソ}る^{イソ}なり。た^{イソ}も^{イソ}濁^{イソ}音^{イソ}ち^{イソ}う^{イソ}ハ^{イソ}陀^{イソ}の^{イソ}字^{イソ}な^{イソ}く^{イソ}を^{イソ}用^{イソ}へ^{イソ}。後^{イソ}日本^{イソ}紀^{イソ}文^{イソ}徳^{イソ}実^{イソ}縁^{イソ}三代^{イソ}實^{イソ}延^{イソ}延^{イソ}武^{イソ}和^{イソ}名^{イソ}集^{イソ}等^{イソ}一^{イソ}同^{イソ}ハ^{イソ}伊^{イソ}太^{イソ}祁^{イソ}曾^{イソ}と^{イソ}か^{イソ}れ^{イソ}今^{イソ}い^{イソ}づ^{イソ}き^{イソ}そ^{イソ}と^{イソ}い^{イソ}ふ^{イソ}二^{イソ}大^{イソ}吹^{イソ}虚^{イソ}万^{イソ}大^{イソ}吹^{イソ}聲^{イソ}と^{イソ}い^{イソ}ふ^{イソ}風^{イソ}情^{イソ}よ^{イソ}て^{イソ}芳^{イソ}の^{イソ}い^{イソ}と^{イソ}り^{イソ}の^{イソ}強^{イソ}を^{イソ}傳^{イソ}つ^{イソ}ら^{イソ}ち^{イソ}ら^{イソ}う^{イソ}

本蓮子

日本
紀
和名

鯨

いれすみ

入^イ雲^イなり。日
中^イ紀^イよ^イあり^イ

磯 いそ

開 いそがほ

急 いそく

争 いそぶ 日本記

勤 いそい

日本記つとむ
といふ甲

出 いら

威稜 いげ

日本記

何時 いら

嚴荒 いらへ

日本記

者度 いらと 和名傳及沙
洞那郷名

弋 いら

和名射
釣後

誰 いらね 日本記

何處 いらく

一万葉いら
こ甲

齋 いらく 京いらく
のこや水此

泉 いらみ

出水の
義あり

稻 いらね 米をヨネ
といふ考ふ
一同韻なり

春黍 いらつ 和名

否 いら いなや
甲

因幡 いらむ

和名

稻荷 いらり 是ハいなよるんを
同韻までかく通る

榎津 いらげ

和名榎は因幡を郡郷名。万葉にハえちげといふあり。
武尾國男倉那よ同名ありハ和名といへるなりとい

とえみ
多通す

電 いらつま いないりつみ
なつらいつと

稻舂蟹 いなつさかな

辭 いなむ

困 いなぐ
和名稻倉ちり

炸蝻 いなこまる
和名

引佐 いなさ
和名遠江郡名

印南野 いなこの
又日本紀并万葉子指

日かきて
いさひとし

苛 いら
和名

應答 いさへ

蕨 いさ
和名

郎子 いさり
日本紀附郎女
いさり

○ ま名
未考 いさる
日本紀

羊桃 いささ
和名

賃 いさ
日本紀賃同
借すなり

忌 いさ

印 いさ
伊丹切なり。
ぬんとまへす

戒 いさ
日本紀

命 いさ
息加
義致

祈 いさ

生 いさ

幾 いさ
いくりいさ
はく等皆同

育波 いさ
和名後河内
はく郡郷名

射採 いさ
あしひち
いさ和名

缺脣 いづくち 和名

活田 いづくた

生國魂 いづきたま

勇禮 いづれ 和名 誠及國 蒲原郡 郷名

憤 いづくむ 日本紀

軍 いづさ

鰲鱧 いづさのやね 和名

弥 いづ

灼然 いづち 日本紀

賤 いづ

今 いま

未 いま まじといふは 上略よておる

わろくろの又よはむよまていまぐしと明るかともよまて
こちよいよていすのいほせすしと二ぬふむやうよのて用あしり
方あゆむとゆとさのさむりいましとさし源氏あけさよ山の極人
まのいよとらとよていすたしくいかるしとていなるささぬ

新漢 いすのた 大和國さる郡地名 日本紀よ今来とす

乃 いす すなるちのころ 女 いす なんちよ同し。得る樂よまよと

坐 いす 池 いけ

牲 いす 生贄 いす なり 虜 いけ

籟 いさす

イサス 生簀を又
イサス 生栖の義を

云 いよ

安忍 いざり

日本紀に「つよく〜してまきけなくありき
みをとらるなり倍よひき〜らハカとありき」

訝 いぶら

壽悒 いぶら

万葉の
せいと

揖宿 いふすま

和名薩摩國郡名以支須岐とあるハハの
字よごれしありちちへー。揖の字よれ

もす〜してつよへ〜を彼國の
人のちよほ〜るちちへー

總 いよ

中矢 いえて

日本紀射
ゆのきと

歷 いで

日本紀よ出カヤ
よハもの〜と云欲

得とかかりおを
強てとふんちり

咄哉 いてや

日本紀發津川
なりよと別なり

不知 いさ

去來 いざ

日本
紀等

漁 いさり

豪傑 いさち

日本紀
附功勳訓

諍 いさふ

徘徊 いざふ

血泣 いさみ

日本
紀

潦水 いさみ

日本
紀

諫 いさむ

制 いさむ

日本紀よ出
万葉よハ禁

勇 いさむ

郷名なり。録の二
名いさむといふ

鯨伏 いさむ

を伎園き
波郡より

小 いさむ

日本記
聊同

輕兵 いさむつるめ

昇
記

○ 其名
不考 いさむめ
古今

潔 いさむ

長 いさむ

日本記。令
あすなり

息 いさむ

おきこいお
きこいといふ

長生地 いさむ

日本紀放
生禁地

勢 いさむ

憤 いさむ

煩熱 いさむ

景天 いさむ

和名

氣調 いさむ

遊仙
窟

海髪 いさむ

和名

窮鬼 いさむ

遊仙
窟

夢 いめ

日本紀万葉寝目ん。目と見と五音通す。
いとゆと通まればゆめといふ

射目人 いめい

万葉射目このい
つり。獵場の射手なり

諱 いさむ

倭忌ていさむハ忌名の我るり。日本紀よハたの
こちと強よりねよハのちといふ

倚子 いー

石 ヲ

石 ンば

石橋也
和名

石走 ヲ

万葉此六渡は
よ石をよまめ

石 ン

石 ンばき

和名

石浪 ヲ

万葉石もよ
ハ並は佩まの字也

鯉 ヲ

魚の名石伏
の是我ちり

鯉 いー

石持の我
よ名付

穢 いひ
よあり

飯 いひ

鷓鴣 いひ

いの字濁るは和
名の佩名伊微

揖保 いひば

和名播磨國郡
名三代美保并

延比武は粒の一字をわかれんはひつみのくは
の字濁るをまよは旅の處よるてよめりあり

休留 いひよ

茅鴿同飯豊
ハ佩字なり

杏葉 いひら

馬具也。和名の
佩名伊俣良。俗

衣布
云行

入農 いひの

和名安藝國
賀茂郡の石

軒 いひき

息引也。和名鷓鴣の汲よ其鳴
極喧とあれば鷓鴣息の我也

邑代 いひーろ

和名をいひ
中郡郷名

草 いひ

和名よ田聲
字苑云草蔵

甌底竹筐也カサより上籬の字の下カサ云考聲切韻云江南人謂
筐底カサ上圓者為籬音羅和名之太美カサかれハ飯籬の字我なり

妹 いし いしと申一古記よ
妻をいしといひり

五十瀬 いせ は撰よせわら川
とよめり是なり

○ ま名
未考 いすろふ 延喜
式

五十粒川 いまゝかえ

中下のい

秦原 はいまゝ

和名を口圓郡なるり。万葉集をきまといふありハ
ほりの本なる。昔よりさ人等信て秋萩と思ひり。

日本紀ハ秦の字を月天武紀ハ秦楷れといふ等あり。今秦
原ハもさうといふべきを同韻よてかよはしてかくり

隼人 はいま

くやいといひり。それをやいをるセハいといふ
あよかくいふんえもとさるを早馬をはいま

いしいしと申一古記よ
妻をいしといひり

羽床 もい 和名後波國
阿野郡郷名

林田 はいま 上
用

鶴 はいま はつたるといふ
ハ同韻通れん

いしいしと申一古記よ
妻をいしといひり

驛 はいま 日本紀万葉又万
葉よとゆま

いしいしと申一古記よ
妻をいしといひり

拜志 はい 和名山城國紀伊
郡ハ名がやうよ

いしいしと申一古記よ
妻をいしといひり

掃墨 はいす 和名えすすこ
を同韻よて通す

匍匐入くもひり 俗よるり

仁多にいた 和名出せ 回郡名

西對しりのたい 無本意ほいな

劇草和名 かいつくも 於名かきつ 搔練かいねり かきく りなり

黃草和名 かいふ 和名かり 撫かいるり 日本紀 ちつなり

視私屏かいまみ 日本紀 大和

搔器考 かいけ 搔餅かきもち かきもち 子搔

更衣かうい 衣久又女 堅魚煎汁かつをいり 和名

髮搔かうい の次をいり 櫛鬢かき 和名

當麻たいま 共日本紀 大夫たいふ

大輔たいふ 柁師たいし 和名

擣衣たうい 玉名たまいな 和名

和字正濫鈔卷二

よむ并名とあり。并を省き
これと殺いよかよりしてそと

啄 ついをむ

和名

築牆 ついかき

和名ついでちごも俗に築地とかくは隈なり。ついでちごは
ついでちごついでちごなり。又本竹よてゆづを

のこかきとゆふとおと
へさひりくしとたり

朔 ついごち

月隠のこちなり
月立るり晦ん

衝立 ついたて

つきたてを曰
酌よく通す

續松 ついまり

俗にたいまり
とりよつた

を通りて云ん。

別は焼松の義也

費 ついえ

未考。費をつえとよ
むは同くしていと

よ便
お

次 ついで

諭 ついひぢり

和名

蹄躡 つまわり

馬病

柱礎 けみり

けみり
名

鳴鳥合 ないどりありせ

うつろ
お

蔑 ないがーろ

當曾 むなかい

和名よむむちとありとありと俗にかくいへる同韻
の故あり。よむなかきとや胸撃の義ありへし

因刺 のいすみ

和名

老 れい

日本紀子人の名に老と
ついでちごして老此云流

諭とあり。えぬまよしおゆとよありおよと
いへるす。やいゆえよの通いなり

綾 カイカケ
ねいけ 和名老敷又ちすけ
じりりのをし

置賜 おいそ 和名出羽
四郡名

四藩 生郡

めり。まじまじてのんちり。後日本紀万葉延喜式もよあまのうとらり

除 日本
記
ねいて

大分 せは四郡
和名
ねほり

奥石杜 おいそのりり 江 近

旅 ねいて
ねきとるり流相
まよはうよとよ

大飯 おほり 和名 狭四郡

悔 日本紀万葉くや
むくゆし
くい

人參 くまのい 和名又かのよけらまのいハ熊膳をさし
四よ上茶とて人參の功をえんたとして

名付 やまを同韻
よて通いていり
くまや

熟艾 やい 延喜式
和名やま
くなり

揚津 やあ 和名橋は四
和名やまあ

烏牛 まい 和名
魚板
なり

鞠 ふいか 和名吹
革ちり
冷 寒
日本紀和名俗よ
いよとゆらり

展轉 こいまるい

万葉又反の字からこいしとあり
りこやるといふしけをなす

漕代 こいし

和名伊勢國飯井郡郷名こ
ぎ一ノムを同韻よて通す

雀駝 えつさい

和名小倉の名より収故と伝すま
け二字の音をとていふなり

愛知 あいち

和名尾張國郡名日本紀五年魚布とあり
てあゆちとありやいゆにのかわらなり

秋鹿 あいり

和名出雲
國郡名

鰐田 あいり

日本紀今の
秋田なり

英多 あいり

和名美依
國郡名

山榴 あいり

和名秋
おほく

花はくつーあれハ秋躰踏の義致常用

桑よハすふらあきつーと述より

秋沙 あいさ

万葉よハあきとありをきよか
くしり。字ハなまはれ佩字なり

頭子 さい

和名万葉よハさいとあり。ハ桑の字ハ
音あり。オをわはまさいといふははし

犀 さい

附奴角ハさい
のはなつの

彈丸 さいり

さいり
日韻通丸

埼玉 さいしま

和名武蔵
國郡名

戲射 さいたて

和名

於揆 さいつち

和名

近曾 さいし

さいし
くらなり

○ 未考 まな さいなむ 佩名未考。常
かくよ任す

三枝 さいくさ

紀子福草とかかり。延喜式に本草別名といひり。
和名子葛の字を用て枝と兼くお前といひり

○ 未考 まな さいで 佩名未考也 紀伊 ま まい まいるれい
のこむをぬい

とす。とよくろみ十強林ヤソコタチよく八十木枝を天下よまよほはと
しまへり。げ林のまよまよす。四なるなよ本國といふ。伊ハ紀の韻を
れハ音便よとくもと。四郡等の名好字をして二字よ限て名
つくへきより一えぬ天皇の御時勅あり。まよりてるり。山城

國紀伊郡し和名よ

岐とのほむり

むりこれし紀伊のくしく肆ハ
ひききをもとくもつる字ん

ぬい

いを通りてかくいへり。アうれし
きとけを通りて虎敷カケるるへ

紐 えけい 也 魚絲

炒備魚 ひば のいを 欠乾 魚也

基肄 ま まい 肥前國郡名るり
和名よ本伊とほ

砧 ま ぬい 和名衣板ふ
り。略してま

鞆 ま りふ 和名よハア
り。俗よま

櫛 ま まい 和

透垣 すいりき

すいりきといふはすいりきといふを
かいつのまゝをいひよ通らるるなり

次田 すいり

筑前市豊郡郷名なりついでに古流より
いふ大嘗會の主基といひ義なり。源氏物語なり
よしげらあり。はの國の吹田次田なるべしを流は撰集よりこ
るこの集の中及び今も吹田とかく古流よりついでに流と吹と
似るれは吹の字の音とさるて流はかへ
りて流と流と書いて改らるるなり

少納言 すなはいりのまうり

名は申下のいおほくはまよかまうりた刀をとい

てら流いしてまといふまよかまうりといふ流

へてかへい。まといははやまかまうりといふ流

よかまへり。又辨屏るといふ音のいへるけいり

力 爲韋未女威尉 音 居井 訓 等

猪 力 猪名野等

蝙蝠 力 和名

居 力 うちと通す。日本紀
よ急居つこり

井 力 岩井山井井筒
井戸等准此

藺 力

珂字豆 力ちこまめ 和名

將 力り 力てゆくいまぬ
るなすくねる

舩 力り 和名舟の沙よ著
てゆくれをいふ俗

えす
る

員辨 力まへ 和名伊治
國郡名

田舎 力ちり 万葉
和名

院 力む 王眷
切 去虎をまよ急
んといふ漢音

ちり。ぬんハ
吳音なり

牛膝 力のくつち 和名俗云
ぬのこつち

豕 力のこ 和名

織複 力のあ 和名俗力のつ
めといふわさり

堰杵 力らひ 和名日本記の懸津天皇記
の大鷲鶴尊の御うりあり

菜底 力さり 和名犁具附菜骨
かさりのえん

膝行 力さり 和名未考。和名ふらさり。足のとね
かさりのえんをわさりとらふことなり

醫 力ざらひ 和名
堰埭 力まき 和名

守宮 力り 和名未考。考よかくかたり。和名よハ蠃蜒ハどうけ
るりよ彼下よ云本草云龍子一名守宮 和名止
加介 蘇

敬注云常在屋壁故名守宮也ありてわりりの和名なり。きりり
わりりのきりりといふは川博物志の記と蘇敬の記とを大にきり
りわりり。きりりけいりり。わりりといひ。きりりけいりりわりり
といふはやあまうらるの老うららがりりといひ。きりりげいり
きりりありぬきりりといひ。きりりきりりきりりきりりきりり
きりりきりりきりりきりりきりりきりりきりりきりりきりり
きりりきりりきりりきりりきりりきりりきりりきりりきりり
きりりきりりきりりきりりきりりきりりきりりきりりきりり
きりりきりりきりりきりりきりりきりりきりりきりりきりり
俗えりり。物えりりきりりきりりきりりきりり

中下のわ

乾 いぬわ

戌亥のあ方を
かきいぬきりり

齧 はわ

和名云齧
傷酢也

行器 ほりわ

外居いり
未考

鶏栖 どりわ

和名鳥居也

宿直 どのわ

殿居なり
侍宿いり

川合 かわわ

和名甲斐國八代郡并巨麻郡

つとま共よ加波井といふ代國よありハかきいぬきりりを
今の井の字おほつらり。國の人乃ちよほりいり

乞索兒

乞兒
同 かつたわ

和名乞食者なり癩人を俗いひわ
つらりかわいひんのかきりりきりり

て物をいひ。傍居の義兒又和名よほりいりいり。壽の字を
日中記よほりいりいりあり。いりいりいりいりいりいりいり
り。いり馬の轡人の心をたてて
いて物をあへていりいりいりいり

桔槔 かなつゑわ

井也 鉄索

雞冠花 からあか 万葉韓 藍

高陽院 かやか

夜居僧 よかのしろう 結番宿 禁中僧

地震 ちか 武烈紀御製又 地動しゆく

澤瀉 なまか 和名依よ田 烏子しあき

てこれをもとにわしふといは澤瀉なり。田烏子ハ下の烏芋のこな
れハ文字し物したういて保まらん。但なまかハなまくとかのん
かまうてくしてらん。烏芋ちり。澤瀉ハ蕒
てらんおられハ和名のんれよあくとらん

髻髪 うなな 万葉 和名

莞 おほか 万葉和名大菴 たり目平紀よ

莞子をかま

大炊寮 ねほおつさ 和名

洲のやう

烏芋 くまか 和名依よれ をとろこか

といふ烏芋ハ思ふ芋死がすすの芋のこな死がすすうりかす
あふきしあれハちり。くまかハ黒丸蘭花根ハ思くしてまうく
も短き蘭花似れハちり丸の字をさ
るひ万葉よ大炊の洲と申くよあり

紅 くれな 和名吳藍とちり。乃阿及奈

位 くらか 座居の 新撰 号紫

野猪 くさかなた記 和名

圓居 まましか 俗に車なま

参入 まかね 万葉まかねりとのよ
へきをいを略しり

詣 まかね まうて回みと通すまてと
しりりよかねて参出のこ

二處 ふじか 和名長門國
厚狭郡に名 本居 こか 海島の知子のこ
りを待て本

居り 居り 眼皮 まなこか 遊仙居又
まなこ

紫陽花 あづきさか 和名かくのこ
かきこてこのこ
万葉よハ味狭藍と

リ六折し同し味ハはしり河狭藍ハさあかねといふこををあ
略してふたあかねりあかねさかのたぐまをれかくはなり
くるるり万葉よまよぬのさなく沈
こまあかねはく藍よ入るなり

藍 あかね 附殿
あかね 藎 あかね 又ハかきこ
和名

佐為 さか 古事記山
ゆりの古語 ○ まなこ さかね まなこ
未考 此撰初
あま井

敷居 志まか 名未考 潮佐為 志はさか 万
紫

敷居 志まか 闌の字をーまみとらうらうらまみとい
ふまを倍よ訛て志まかといひてまね

さへ虫丸左傳は班荊を志しを志すは
よすともあるは今の義ありあへず

物理 むしろか

和名備前國
磐梨郡の右

基 七どか

未考得ぬ居
の義ありし

用

七ちか

け假名のまゝに
性なるはを

ゆい ちうとふへーかとうみ音のぬなり。りちゆいからうす。
ゆい
と過す

い 附

これ中下はありてさ便のいれとまゝに
いふはよとかといふハ隔りてまゝにねをいふ

櫟

いちい

古事記万葉和名。
いちのかとちへうす

入相 いりあひ

日の入ほしとをいふ。腕持ハりあひ
のかのちをいふつりあひといふ

牽牛 いぬいほ

和名
ほーと

大器 いぬのたまひ

和名
大吐也

木蓮子 いたい

万葉
和名

槭

いひ

和名

飯

いひ

いかにかく
いへ

粒

いひほ

日本記又攝摩
國名攝保も

三代天皇孫延

朧目 いひぼ

和名粒は似
まはいふ花信

しぐとらふおちよ又いをめ俗よのを
のめどしよ魚目よ似るるぬなり

揖保 いひほ

休留 いひとよ

名 む

赤蟻 いひあり

和名飯よつく蟻ハ
こまうにてみそり

白拂 はへりい

和名蠟
拂るり

蜜 はちすのい

和名
くま

ふりりて
名つく

羽易 はくい

万葉
和字

取 つくろい

和名

羽喰 はくい

和名能々
回郡名

蔓荆 はまらい

疾延るり
和名

灰 はい

和名といと
かくへりす

葡萄入 いひりり

は撰のこちよふり出り
とりりりちといりり

延槻河 はいつさく

和名似名並万
葉紙中よあり

杜仲 いひまゆい

蔓檀
なり

新掌 にんるい

よんのあひ
こし日本記

漿 よねい

和名よ又つりりりり俗よおせゆといふこれ
おおしハれるり下は冷水といふ下よんゆ

水をすくくいれて水かちよて煮くこれハ煮水死又たこの
水よ似るハ似水死等よハけ字をんりともありハこりりよて濃み

の我るりわなよハ醜を
こころとて別よ出より

甘遂 にしそ
みハよはろ
わな

庭妹 よいせ
わな信中契
友那ハ名

小縣 ちひさか
和名信濃
回郡名

又すり
わな名

一法んポ衣物よて溜るんぬへし又すまゝめ
たよわなよんくこり日本記よハなまもこり

新 よい
万葉和名よい
とかくへし

菌茹 にいすくさ
又ねあさ
わな

乞索兒 はかりぐと
和名又
かろ

小蛸魚 ちひされら
小およ
てきん

禪 ちひされら
小およ
てきん

小 ちひさ
ちひさーとくへし

繡 ぬいり
わなよハぬむり
常よハぬいり

甥 をい
わなをい
とへし

嬬歌 かぐい
万葉等
と第九

和名堅炊飯
の義なり

餉 かんい
かんい

度會 わし
わな信
回郡名

餐饋 かろまのい
わな

參差 かろまのい
わな

鞆 かんいつけ
馬具和名
餉著義

標子かれひけ

わ名子標子
こりこちり

五餘魚かえひ

俗云か
れひわ

名。今案かえひハ韓^チ韓^ニの教ちりへし。らに
を切せられともるなり。かれひといひなり。

踏火かけろひ

古事記ハ履中天皇^ゴ御^ゴ初^ゴハ火をかくよる也
たまへり。ま名ハ万^ニよ^ニ春^ノのかけろひ。かくかけ

り。かろひのゆりまは踏^カ火^ノの光かろひ。似^レれ^ルハちりへし。これ
かろひといひ。まを火をばとふ。かろひといひ。かろひといひ。

檀日かろひ

日本紀万^ニ也^ハハ香^ニ推^ハかろひ。これをわ名よる
かすのしあり。姓氏録ハ槽^カ冰^ニし^カれ^ルなり。

三代交録ハ香襲
これしかすいん

貝かひ

まやわ名がい
しかくへし

殻りひ

わ名虫くは甲也
わ洲のこ貝よ同

匙かひ

わ
名

梭かひ

日本紀機具也。わ名柝^ト曰^ハひきよよし。ひきよよまをな
んす。り比の楯の水をかよひ。まよ同。これハ同洲也

かいしかを弱きをかよひ。さうらをかよひ。ちと
そへていよる。これハ下のひかき。いよ同。これ

舢かへろく

船不安
やわ名

雞頭樹かひろてのま

わ
名

かろく

肘かひな

古事記日本
武尊御秋

蟹かひこ

卵かひご

かひご。殻
子のこちり

拵

かせい

延喜式
かせい

けり

のん

仗下紙の

るつとんぬ

よろいぢれハ

々星のちるり

齢 よばい

流星 よろいぢ

和名

鑿 かすい

和名得る由事
りるハ今のカ

○ まな
未考

よろい

巻帳目
元より

鎧 よろい

日本紀より具
のうまゝいと

白芷 よろい

よろい
もちぢる

結婚 よばい

日本紀
系ゆふ

霄 よい

日本紀衣通姫袂
又六帖のころよあ

ひさすりらひさすりら... あちよのおのたのよい... よあらして
しごるれあちよのおのたのたのい... あつぢるれハあつちよあい
たすしよよよせしりよい... はたをば... ころ... ころ...
月。躬恒... ころ... ころ... ころ... ころ... ころ... ころ... ころ... ころ...
はちり。よあら...
かへう... す

舟比 たちい

和名向舟
國郡名

多邊比花 たちい

假令 たさい

譬喩と訓
のうま

互 たりい

日本紀よ虎杖花
の古流とつり

輿 たりい

テアラレ
はの義ちりすか... ころ... ころ... ころ... ころ...
あついを互阿... たちちるれよだりい... ころ... ころ... ころ... ころ...

よをたといひてあし
をと略してみけり

巾 たるこい
わ

塊 たまひ
万葉十めたまひ
おとんまへりす

反吐 たまひ
日本紀嘔
吐和名同

柄 たい
和名俗云能
不一云云此

鯛 たい
和名たいとまへり
すのなる魚也

ももんたりのの略だりしとらしとおちりおんあまとき
のほよりいたいのたじかきさつらしうあつたたいとくねまたい
かたさつらしと

平 たり
たつとまへ
りすだり

手杖なり。俗掌をよのけりしとらり又
物の年るのを如掌とよを思ひて

平安城 たり

今の都の名。日本後紀は蘇我石大兄園人
磯原天皇は奉りしとまへりすの日

の地乃ほよりよほせしと
たりはちよとまへりす

背向 そい
万葉とまへり
の略なり

日本紀よそのしとまへりしと
くといふとせさつらしとまへり

○ 未考 そい
万葉とまへりすのそいしとまへりしと
のさなりしとまへりす

しつしと略れ壘の削し我甲かりへり
しかりすしとまへりすをりて底をそいしとまへりしと
ろん強
なり

鷓 そい
日本紀和名俗よ
かえせしとまへり

るなり古事記よはらみしとてし
ふあり又翠鳥よふり翠翠ハ此雄雄也

陰顔 ろい

わ

酸 ろい

和名云蔣飭切韵
云酸於厨及酒再

下類也俗語云曾比今の世とくか
くるとよふれりといはほの幾

傍 ろい

日本紀よかんと
いやまふ万葉

よかるといひの思入のち又いふらふのそいひのそり系しよ
めり川よとくふとを川傍思ふこころよとくふとをいひは
ろのそいひと
行よとくふ
すな

使 ろい

つふといふ用の
を律よといふな

客作兒 つくのい

和名人のしめよまを依 僕を
まろね流人なるれの名なり

鮎 ついのい

以角觸物
也和名

白英 つごのい

又ほけ

遂 ついのい

古事記并万
葉第二十

婦負 ねい

和名弼中国郡名なり万葉よはめいあり
字よふれいめおいを暇せむをねいといふ八同韵

愁 なまのい

万葉集
のこえを

よて通せる
なるる

まは古事記よ尔指取依其律琴而那摩那摩迹控坐とある
ハ志ぶくのこなるかまよんたちちるや女席ちとハけい
ちるこ物の愁とすてかまよとささるるるるる人の
ころく志いさしたるハ志らねよおとれハ志ねよまたとて

いづれにまゝあるを麻強しかる
し佩字なうしんあるよや

圍人 むまうし

馬飼らり
和名

衆籬 むさすくし

麥索煮粉
也和名

常 ろくしす

美奈和名古今地名よらう花のーつこま
そちつてうくしすのこをのそくえん
かくとりぬの字用へり寸愛作樂のそよみ付るを
もの中よきハねようけくーを菓をさつおといり

新狩 ろけひかり

日本紀のすのまぬを獲およりちてか
らんためよこら獵をいふ。仔細物伝よ
つししたのふ人をうけかといふよらてうくしすといふ
はじめてのろよるすなりと思へハあふらちなり。新代紀

ハ世物をうけいししと非武紀よし初の子をよめり。只はの
よしいめるとちりふしをうけよといいて。そ中よ仔細物伝よあ
るいのろよかといふ
ろあしんハ
石龍薔 ろのけいし 和名

初 うい 古今物よ蕃薇をさふをげさうしよとこりる
しと久くよまる。ういうぬるしとせへり。日本

紀よ初位をういかりと並り。又ハ辰をうけさなりと
並り。うふしういし又音通せり。清濁ハかそれこれハ係
例しあれハりハい
もつらなるハ
戴星馬 ろのけいのむま 和名

碓氷 ろすい

和名と地
團郡名

醫 かさし

和名

大辨 おほいねほよひ 和名
額 おとがひ

大忍 おほさひ 和名古依國香美郡の名
名 假名 若よひ

苜蓿 ねほひ 和名
在魚 くろい 和名黒鯛

鞍肥 くられほひ 和名
鵠 くひ 和名くわがく

いよ 和名
饅 ぐい 和名
考聲

切韻云 饅 古勞及字亦作 饅久佐毛知化 蒸米屑為之 文德實錄云 嘉祥三年 訛言 曰 今茲三日不可造 饅以無母子也 今按考聲切韻の云ハ米の粉

をむしてとら餅をりくるとしつひとむは饅は文徳實
録をいれり然まじし実録として毛知化のいふてし
るをかくす三貝を餅を貴すれや次下は母子なるなまじこ
しとまるとしてのりもひとさしりもひと知りたるなり
これよりわけて饅をくるとしつひとさしりもひとさしり
思われさりりややおほし嘉祥三年の訛言ハ仁明天皇三月
に崩ししまひ御母深詠皇居おる一月よかくれた
まろりもあわたり母子ハくくもるなりとよむすし

代 くひ 和名
蝮 蛭 在牛馬皮中

涼 くひ 取獸 和名
水雞 くひ 日本紀和名

教賀郡日
本記万葉

見文
選

艤

ふなよふこい

和名舟袋
のこいなり

苦船

ふなやふこい

和名

篩

ふるい

和名振ふるを辨
ふいふるすなり

蓀垂

ふらりのこい

垂字

吹飯濱 ふけいのこま
伴なりふけぬ
りおへうす
しなういしちりるうす
けよいいするすこなり

万葉吹飯濱和泉丹後紀伊四
よあり宗干信正のよめる紀

特牛

と事云

こい

和名美
華よ事

負りかりり牛大さきよりてうく物を負ふなこ

りおいしをと眩ぢりなれ又特の字殊り同訓るりハ他の牛

より異なるがれはゆら負

本舞

俗こまのい

しハたれし殊負のこは

有意

鯉

和名味のよめて
人の意い

版のなれは歌は意はせてたはく
よありこいこねり半へくす

憲

魁

和名膝脚や俗は
ちんすね

えこいすねの片をちり肥ち喘ちやし空ゆれしこいづこいし空
ゆをいつしもく半を知てあやまれるちりをるしをいつ

うらぬのちとむ我は國よきまいつしむ村ありてこよあ
のふまはのうくばあり村ののいしそはをんて火をどて
すいよまむしとや村の名をれぬたさそ一村よハ男女を
いそ寸大ういしあ一よてゆりもそぬりも水のこらさき
よあしうよわかけらる日
死をよせこいつり
泥 こいぢ
わら粉土のき
なるへいぢい
ちりこいしよ借よとらとふわなまごらののいんし寸ぢる
よ類聚國史よら後の登勒池を或ハ泥潭池としめわらる
るよりの
蟬 けい
なるへいぢい

交 あはし

或 あるしえ

價 あし

あしあしあ
た守る一類也

麻柱 あなり

わら名造
具竹は抱

決よ
しり

穴奈比 あさし

続日
才記号

の申の宣命よんくたうそらう字ん似名もり
あくらさきり麻柱しれりあつくるん

如 あまの

古事記よあり日中記述ご
の古流なり又しうらしり

葵 あま

日ははらして傾くまなれし作日のまよ名
つくるれ又け葵ハ和名よし園葉よ我て延我

式よ天子の供御よし奉らるしんしり。崔島錫食経よ諸
をいりて葉似葵而圓廣しあれハ賀茂系よ利る葵よあ

むハ保なり日本紀は天子の御歡を志るるやハ
こいのちと並をりてかハいのちとよむ

境

さうい

日本紀并万葉ノ境部といふ姓を坂会部とい
かり山のたうげにさるるかきこの坂乃さう

へるふて國こまてさうへハさ
あいを略してさういといさる

權

さうい

わささうへさうふといふ
ちありそれを狩よつた

冷水 さむさみい

日本紀并七系紀さむさみいハつめ
いささりといハ飲む水の名とい

帝は奉る水るれハ冷水なり借馬樂よみいしと
いへるこれハ同ハ赤坂東門家系よむいといさみよまらると

くると同ハ下の上

水司の下よこく

て狩よ

なつく

侍 さあ〜い

さあ〜い
いふをよ

雜賀 さい

紀伊國
あり万葉

よさいらの尚もありちを古板よさうい尚もか
りの保ちるるを万葉を考へすて紀の國よさう
ありといハ保をう
くすま〜いといさる

鑄 さいつ

和名

鋤持神 さいりちのかみ

日本紀又日本紀ハ鋤ハ鋤の
ちりこの鑄字のほハ鋤屬也

とあれど鋤字をさいといふあるも鑄の
よて鋤のそれハ似〜いといふはな

脛脂 きんじい

和名

近衛府 ゆけいのつらさ

兵衛府衛門府同之衛府たのくく左右あれは衛府とて
以て鞍を負ふ者ちれハ鞍負といふへさるをゆけいといふは
けをきよ通りてたをと略やうり又幾於切いとなればつ
めてゆけいといふへさるをゆけいといふは
してゆけいといふは
鞍ハ倍よさうつかなり
やいひてう
るをいひり

姪 めい

和名

盲 めい

和名

澆水囊 じょうすいぶくろ

和名

○ 真名 未考 ゆい 田うらるよ
よよ人を

僧具 ぶどうのみ

つら

推 たい

日本紀古事記
万葉和名一曰な

了志おしかくハ保ちり兼補卿家集よし十干を隠岐よよ
まゆらるゆりよ丙を志いのえいし隠さけら古事記り
應外天皇の侍のよハ志
いよふたあつり

瘤 ぶつぶ

和名

強 たい

万葉志おてし
かくへうす

糗 ちい

和名

副車 ぶしや

和名

沈酒 ちんしゆ

日本紀

太白神 たいはくしん

和名

まよし

額 りんじ

和名額ハ佛の三十二相よし。額廣平正といへん。廣平の略ハのりといふ。かくへうす。又ぬらとといふ。ぬとむと同韻。るれどむうよて向いの略ハ括向いこ。えんゆるあろ。れどるり。和名よ板齒。ハのり。とあるハ世よふむ。齒。な。りこれよ清くして。之。

蔽髮 りんじ

又みろのねく。和名。墓の額よ似く。りよ。

細幸 いまのりいひくさ

戩 りる

○ 未考 りああそい

疼 りくく

和名日本紀の神武天皇の御名のよう。は。り。は。ド。く。く。ら。く。く。と。よ。か。さ。い。

まへるはばり。く。く。を。く。く。ぞ。か。り。ま。う。よ。依。て。口。の。疼。く。を。の。め。せ。た。ま。も。く。く。く。く。く。く。く。ハ。下。の。ら。の。字。隔。り。て。い。ひ。て。ま。く。く。の。ま。き。ま。は。あ。り。て。ま。ま。乃。は。の。ま。ま。こ。り。さ。く。ら。を。勝。とい。い。器。物。の。ま。れ。め。の。出。ま。る。を。ら。く。ま。い。い。い。ま。よ。り。て。ら。の。未。ま。ま。を。打。て。ま。ま。こ。り。あ。る。を。り。く。く。の。ま。ま。く。く。く。く。く。く。く。の。ま。ま。か。ま。ふ。ん。を。

黄木 りんじ

和名よ扛谷樹。巴載天。う。か。ご。く。く。川。同。一。葉。の。ま。ま。て。人。を。刺。と。い。疾。本。

髻 りんじ

和名髪を

の。九。扛。谷。樹。ハ。續。日。本。紀。よ。も。ん。く。く。く。く。本。を。造。り。地。ち。れ。ハ。い。ち。り。

餅 りんじ

和名りんじ

りちかきと去へく寸を月をもちつていふてみとも
通されいともつていふれはれは得も満なる物るれはちと
義れ又勝負をあつていふよかすすまぬをもちいふ
物の中をもちえちれいそのやうよちかけの中るれは持
月とのふれそれよかしたれは持飯といふれは編をもちいふ
羊躰間をもちつていふよち放しぬされ合きて思
し

癪 りい
名 和

船 ふね
舟を並へあ
くもるなり

癪狂 りのぐるい
名 和
後れのもやりのちと
よちれりちとちる

燼 しえん
和名 燼
杖なり

盃 はち
日本記万葉和名日本記和名ありしとちり
盃を飲水器やとにりちるやわ洲同きん

この盃の
主水司 しすい
とちりちり

うさ
とちりちりちりちりちりちり
り又くちをいりちり

住 すま
万葉すま
相撲 すまひ
遊仙屋は
拵のきか

すまふしとちりちりちりちりちりちりちりちりちりちりちりちり
いふれちりちりちりちりちりちりちりちりちりちりちりちりちり
ふまふしとちりちりちりちりちりちりちりちりちりちりちりちり
まのいちりちりちりちりちりちりちりちりちりちりちりちりちり

白慈草 すまひくろ

今草并花は生つ集わぬよ白慈
草はよこぢりぢりあること

本抄よすまひくろはこころちりまこころちりくろはこころちり

くろはこころすまひはあつらふてさして別名をすまひ

ちのし

忍冬 すひくろ

わくち甘
すひくろ

いづれ

リヤ、こころくろはこころのちよ

物まれのちよとすまひ

和字正瀬劔巻二終

